

●平成5年度「魚礁設置による魚群の増殖と食害生物の駆除」に関する調査報告書

平成5年度は前年度と同様の魚礁規模で、放流前日までに刺網による食害生物除去も実施した。刺網による漁獲物は表-29に示したが、この時も重要な食害生物と目される魚種の漁獲はできなかった。放流直後の観察ではハマフエフキはこれまでと同様に放流と同時に真下に向かいしばらくすると魚礁周辺に定着したが、この時は一部(約20尾)放流に使用した船に付き船が移動後逸散した。スジアラは放流後ゆっくりと下降しその後魚礁付近に着底したが、この時は潜行の遅い個体がみられ、1尾潜行途中にイソマグロと思われる大型魚に食害を受けた。放流後の滞留状況は水中監視カメラと潜水調査により実施したが、水中監視カメラでは放流翌日から放流魚が全く確認できなかった。これは魚礁設置範囲の広がりによる魚群の広がりのためだけとは考えられず、放流後まもなくかなりの放流魚が逸散したことが考えられた。しかし、放流から26日、37日、91日後に実施した潜水調査では、いずれの調査でも放流魚は確認できたが数は100尾程度と少なかった。このことから5年度の放流魚は放流まもなくかなりの逸散があったものの、一部は長期にわたり滞留したものと考えられた。しかし、逸散についてはその原因と思われるような現象は認められず、課題を残す結果となった。

表-29 食害生物駆除のため実施した刺網による漁獲物(平成5年度)

魚種	体長	体重	魚種	体長	体重
キョコイ	325	1880	クマヱ	265	410
キョコイ	313	1560	クロハキ	458	2000
キョコイ	170	260	メチガイ	202	180
アキガ	1105	1080	クマヱ	335	840
メチガイ	225	300	オオカス	592	1110
ハリセンボン	180	190			
ハリセンボン	208	310			
トゲダカ	157	40			
ツハメウオ	285	760			
ツハメウオ	335	1400			
マルチヒメジ	330	570			
モンツキアカヒメジ	262	270			
モンツキアカヒメジ	298	400			
シマアジ	236	160			
シマアジ	230	170			
シマアジ	225	180			
シマアジ	226	180			
エスジフエ	233	210			
メチガイ	250	340			
メチガイ	215	210			

④放流魚と魚礁の関係

本調査における人工種苗の放流はいずれも音響給餌ブイで行い、多かれ少なかれ人工魚礁が設置された状態で実施した。このため種苗放流に魚礁が必要かどうかの検討は十分とはいえないが、放流魚はいずれの放流群においても放流後しばらくすると魚礁付近に定着し、その後も魚礁から大きく離れることなく生活するのが観察された。また、外敵の出現時には周辺に広がっていた放流魚が魚礁へ逃避するのも確認された。このことは魚礁が放流魚のよりどころであり、その滞留を助長し、自然環境への馴致に必要なものであることを示唆するものであった。これは大型種苗でも同様であ